気仙沼市における「ご当地グルメづくり」による復興支援活動

干川　剛史　教授
（人間関係学部　人間関係学科　社会学専攻）

1 本プロジェクトの目的：東日本大震災被災地の気仙沼市において「気仙沼ご当地グルメの会」と連携しながら、また、地域食材を活用した地域おこしの専門家の協力を得て、現地の魚介類等の食材を活用した「ご当地グルメづくり」を通じて被災地の復興を支援することである。

2 活動内容：プロジェクト代表者の干川は、「気仙沼ご当地グルメの会」代表者で不動産会社「十人十色ライフサービス(株)」代表取締役社長の一色法人氏と連絡調整を行いながら、また、鹿児島県等の全国各地で地域食材を活用した「ご当地グルメづくり」の豊富な経験と実績を持つ椰木春幸氏に、現地の魚介類等の食材を素材とした「ご当地グルメづくり」について助言・指導を依頼した。

まず、2022 年 8 月 13 日に干川と「気仙沼ご当地グルメの会」代表の一色氏が、「ご当地グルメづくり」検討会の企画及び地元メディアや SNS を活用した協力団体関係者や飲食店関係者等への参加の呼び掛けについて打ち合わせた。



写真 1　Zoom によるオンライン検討会の様子



写真 2　パワーポイント資料を表示したパソコンの画面

そして、写真 1・2 のように、同年 10 月 22 日に「一色十色ライフサービス（株)」の事務所に、一色氏、干川と干川ゼミの学生 3 名、「一般社団法人　気仙沼倫理法人会」専務幹事の千葉　健氏が集まり、椰木氏と Zoom でのオンラインで検討会を実施した。まず、干川が、これまでの気仙沼市での「ご当地グルメづくり」の活動をパワーポイントで説明し、その後、椰木氏と学生を中心に気仙沼市での「ご当地グルメづくり」の今後の課題について意見交換を行った。

3 活動の成果：気仙沼市における「ご当地グルメづくり」は、写真 3・4 のようなこれまでの活動を振り返りながら、一色氏と千葉氏が協力者を募って、図のように、気仙沼商工会議所や気仙沼市の協力の下に気仙沼市内の官民の連携体制を作り出した上で、梛木氏の支援を受けながら今後展開して行くという方策が導き出された。



写真 3　梛木春幸氏の「桜島灰干し」に関する講演
（2016 年 3 月 12 日気仙沼市松岩公民館）



写真 4　「宮城県倫理法人会」の「イブニングセミナー」での梛木春幸氏の「ご当地グルメづくり」講演
（2022 年 6 月 14 日「気仙沼ホテル　一景閣」）

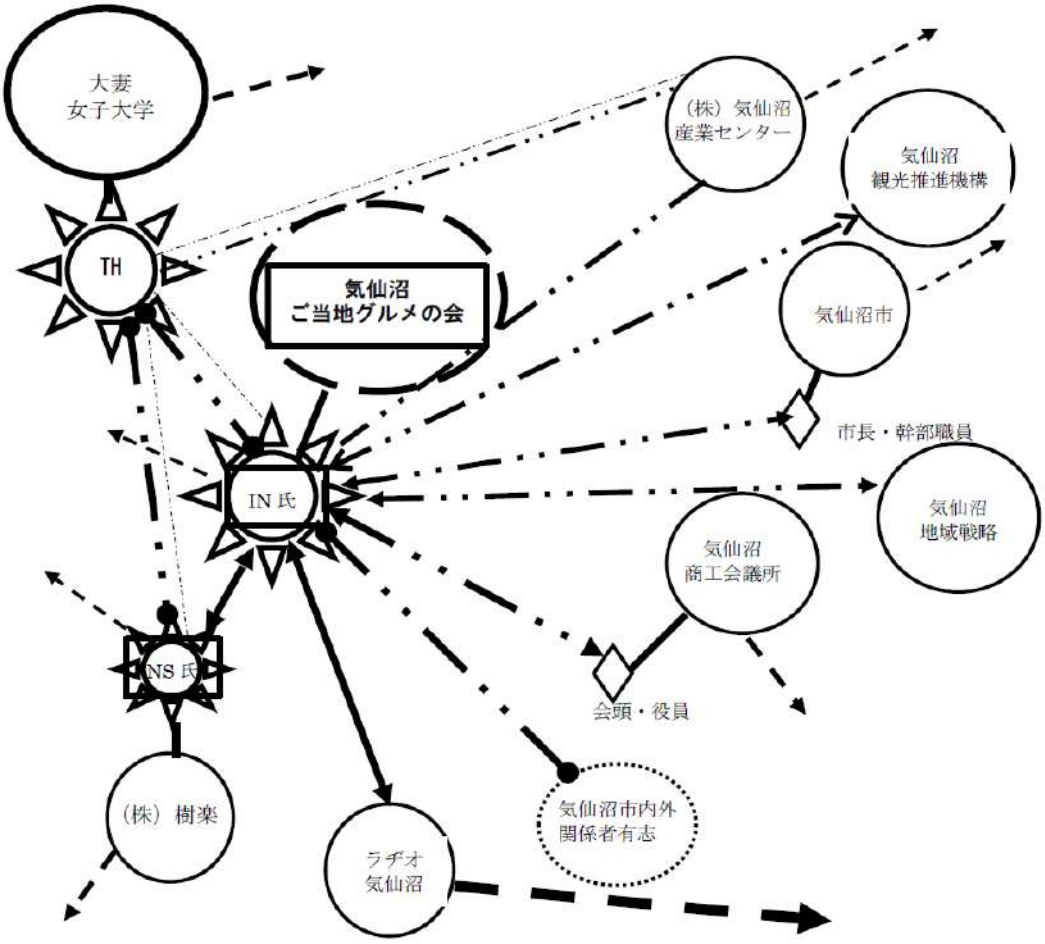


図　「デジタル・ネットワーキング・モデル」によって描出した気仙沼市における復興に向けての課題に取り組む地域内外の人々と団体の間の連携体制